



動物レスキュー通信

2017年1月 第44号 (平成29年1月1日発行)

発行元 一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく) : 詩月財団 理事長
愛玩動物飼養管理士 一級
ペット災害危機管理士 三級
お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

ワンちゃん、ネコちゃん 人間にもたらす効果



イラスト ASH

新年明けましておめでとうございます。本年も何卒よろしくお願ひ致します。ワンちゃんの祖先はオオカミと言われています。昔は人間がワンちゃんと一緒に暮らす目的としては番犬や狩猟犬として活用することがほとんどでした。そしてネコちゃんも人間と一緒に暮らす理由は、農作物を荒らすネズミを退治するために飼われ始めたようです。このようにワンちゃんもネコちゃんも狩りなどをし、人間の生活を助けるため、人間が活用するために一緒に暮らし始めました。しかし1990年代に入り、経済状況の不安や人間関係に伴うストレスなどから心や体の疲れを訴える人が増えてきました。そんな中、「癒し」の対象として注目を浴びたのがワンちゃんやネコちゃんなどのいわゆるペットと言われる動物でした。この頃からお座敷犬と言われる小型犬の普及などもあり室内飼育が普及し始める事により、飼い主さんとワンちゃんやネコちゃんとの距離が物理的にも精神的にも近くなりはじめ、今ではペットと言っよりも家族という考え方の飼い主さんが増えてきています。内閣府による2010年「動物愛護に関する世論調査」でも、「ペット飼育がよい理由」として60%以上

うに、ワンちゃん、ネコちゃんが人間と一緒に暮らす理由として、昔の番犬やネズミ捕りなどといった「実用」から、安らぎや癒しを求める「精神的な安定」に移り変わって来ました。

具体的な効果

ではその精神的な安らぎや癒しをもたらすワンちゃんやネコちゃんが人間に与えてくれる効果にはどのようなものがあるのか見ていきましょう。一般社団法人ペットフード協会が行っている2015年の「全国犬猫飼育実態調査」では「ペット飼育の効用」として、その結果の大部分は精神的な癒しなどの効果を実感している人が多いと言えます。「16歳未満の子供の場合」①心豊かに育っている(60.7%)②生命の大切さをより理解するようになった(59.4%)③家族とのコミュニケーションが豊かになった(53.1%)「高齢者の場合」①情緒が安定するようになった(45%)②寂しがる③少なくなった(44.4%)④ストレスを抱えないようになった(37.8%)「夫婦関係の場合」①夫婦の会話が多くなった(57.4%)②夫婦の関係がなごやかに変わった(45.2%)③夫婦で過ごす時間が多くなった(35.6%)「自分自身の場合」①生活に潤いや安らぎを実感できるようになった(56.5%)②孤独感を感じなくなった

(54.3%)③ハリのある生活を送れるようになった(41.8%)以上のようワンちゃんやネコちゃんとの生活は、情緒の安定、「コミュニケーション、ストレス軽減」など様々な部分において人間に良い影響を与えていることがわかります。そしてその事を人々が自然と受け入れているので、ペット飼育のきっかけとして多い回答は「生活に癒し・安らぎが欲しかったから」という回答となっています。またこうした感覚的なものだけでなく根拠に基づいた研究報告も行われています。①「ペットを飼っている人の方が飼っていない人と比べて心臓発作から1年後の生存率が高い(1980年、エリカ・フリードマン)②「ペットを飼っている人の方が血中のコレステロール値や中性脂肪値が低い(1992年、ワーウィック・アンダーソン)③「ペットの飼い主は通院回数が少なく医療費も少ない(1985年、ブルース・ピーティ)④「0歳〜1歳までの間に犬を飼っていた家庭で育った子供は7歳になった時点で喘息を発症する可能性が13%低い(2015年、トープ・ファル)などの結果があります。又、ワンちゃんや見つけ合ったり触れ合ったりする事で、幸福感や安心感を与えるホルモンである「オキシトシン」が人間だけではなくワンちゃんにも活発に分泌されるという事がわかっています。しかしこの状況は逆の事も言えるようです。つまり動物が何らかの理由で不安や恐怖、ストレスなどを感じているとそれが触れ合っている人間にも影響を及ぼしてしまつ可能性があるという事です。この事からも分かるように、ワンちゃん、ネコちゃんと飼い主さんがお互いを大切に、一緒にいる事を幸せに感じる事こそ、その癒し効果を最大限に感じる事ができ、幸せな共生が長続きするのです。今更以上ワンちゃん、ネコちゃんを愛おしく感じるのではないですか?その気持ちこそが不幸なワンちゃん、ネコちゃんを減らす一歩だと確信しております。(詩月)